

## 令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立草加中学校

(令和3年1月27日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 「目標を持ち、努力する生徒」	
<b>2 重点目標・努力目標</b> 『指導方法の工夫改善を行い、生徒一人ひとりを伸ばし育む』 (1)「いまをたくましく生きる」ための確かな学力を育む学習指導 (2)「いまをたくましく生きる」ための生徒指導の充実 (3)幼保小中を一貫した教育の推進 (4)地域とともにある学校づくりの推進 (5)「いまをたくましく生きる」ための健康教育・安全教育の充実 (6)新学習指導要領全面実施を見据えた道徳教育の充実 (7)ノーマライゼーションの視点を持つ特別支援教育の充実 (8)「いまをたくましく生きる」ための進路指導の推進	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○本年度はコロナ禍のために、地域や保護者の方に学校を見学してもらう機会がなかったが、学校評価において教育活動全般で保護者・生徒・学校運営協議会委員から概ね高い評価を得ており、本校の教育活動が推進されていたと考える。学校全体も落ち着いた雰囲気教育活動が行えた。 課題 ●若手教員の指導力向上。ベテラン教諭のICT活用授業など、互いが教えあいながら、学校全体のレベルアップが図れるように組織的に対応していくことが課題である。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教育目標が教職員に周知され、教育活動を進めるうえで生かされている。 ○各分掌でPDCAが徹底され、次年度以降の課題を共通理解・確認した。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○コロナ禍のため校内研修の内容を吟味したが、全教職員で組織的に取り組めた。 ○道徳研究部を中心に研究発表会を実施し、参会者から高い評価をいただいた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○教職員・生徒の毎朝の健康観察を徹底して取り組めた。 ○保健・安全の維持・管理・指導に全教職員で取り組めた。 ●防災訓練・避難訓練の内容の見直しを図ることが課題である。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○校務用PCの「校支援」を利用し、全教職員によるデータの共有を図った。 ○個人情報の保護、セキュリティの確保について徹底している。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だよりの定期的な発行とHPの更新、一斉メール等を通して連携を深めた。 ●学校運営協議会を実施したが、本年度はコロナ禍ということもあり、地域の状況を把握することができなかった。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○小中連携はこまめに情報交換を行い、共通理解を図った。 ●すべての行事が実施できなかったため一貫教育に関する研究を進めることができなかった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<p>○一人ひとりの学習意欲を高め、深めていける授業を実施した。</p> <p>○教職員が教育目標を理解し、教育活動を進め、学年・学級指導にいかした。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<p>○各教科の教科会での話し合いを充実させ、生徒の思いや願いをいかす授業展開とわかる授業が実践できた。</p> <p>●ICT等を活用した学習指導法の更なる工夫改善が必要である。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<p>○評価に関する校内研修を行い、一人ひとりに応じた評価ができた。</p> <p>○授業確保に努め、学年間で教材等の情報共有ができています。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	A	<p>○生徒会本部や専門委員会組織を中心に活発な活動が計画・実践できた。</p> <p>○少ない学校行事であったが、工夫して全校で意欲的に取り組めた。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	A	<p>○一人ひとりに応じた評価ができた。</p> <p>○学年全体で組織的・系統的に授業が実践された。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、生徒理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<p>○いじめ対策委員会を開催し、様々な角度から、いじめに対する見解を検討することができた。</p> <p>○生徒指導委員会、教育相談部会を中心に組織的な指導ができた。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なキャリア教育</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>進路情報の収集・活用</li> <li>職場体験活動</li> </ul>	B	<p>○職業調べや上級学校調べなど3年間を見通した計画的な指導ができた。</p> <p>●体験活動や個に応じたよりよい指導を実践する必要がある。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<p>○コーディネーターを中心に組織的な指導と対応ができた。</p> <p>○個々の生徒の状況を把握し、関係機関との連携を図れた。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<p>○生徒会、図書委員会により学級文庫が充実し、朝読書が確実に実施できた。</p> <p>○司書教諭、学校司書が中心となり積極的な図書館経営ができた。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○ICT活用の研修会を充実させ、全教職員が活用できるようにした。</p> <p>●全教職員が積極的に活用できていないのが課題である。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	A	<p>○年間計画通り、人権作文・標語を全校で実施できた。</p> <p>○校内研修を実施し、人権教育に関する理解を深めた。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
特色ある学校づくり	学力向上の取組について	・基礎学力を定着させるための学習の推進	A	○漢字・計算・社会・理科・スペリングコンテストを計画的に行い、基礎学力の定着を図った。
	幼保小中を一貫した教育の取組について	・教師間での交流の深化 ・児童生徒の交流の深化	B	●コロナ禍による行事精選のため、児童生徒間での交流ができなかった。しかし、乗り入れ授業を実施したことにより中1ギャップ解消につながった。
	「特別の教科 道徳」の取組について	研究委嘱に関わる研究発表会について	A	○全教職員が組織の一員として、役割分担を担った。 ○道徳研究部を中心に研究発表会を成功させた。

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

○学校教育目標「目標を持ち、努力する生徒」が育成されている。目指す生徒像「あ（明るい挨拶）か（活発な活動）つ（強いつながり）き（今日をきりひらく）の実現が昨年度もポイントが上回ったが、それ以上に本年度も1. 2ポイント上回り本年度の学校運営や教育活動において概ね良好であり、全職員が学校教育目標の具現化に向けて共通課題を認識し、組織的に取り組んでいるといえる。

○わかる授業づくりや基礎学力の定着・ICTを活用した授業など地域・保護者に理解され、徐々に成果を上げている。

○「特別の教科 道徳」の研究委嘱に係る本発表は、計画通りに実施され、参考になった等たくさんの評価をいただいた。

**6 次年度の改善策**

- ・ベテラン教諭と若手教諭の連携。
- ・コンテストの内容の充実と工夫を含めた基礎学力の定着を図る取組の更なる推進。
- ・特別の教科 道徳3つの研究部（ロールプレイ型、討論型、グループ型）の更なる研究。
- ・生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導と不登校生徒の解消に向けた生徒指導の充実。
- ・たよりやホームページ等による学校情報の適切な提供と家庭・地域との連携の強化。
- ・体力の向上。
- ・学校図書を整備・充実と生徒の読書活動の推進。